

ヒートポンプエアコンを利用した ユリの夜冷栽培の収益性

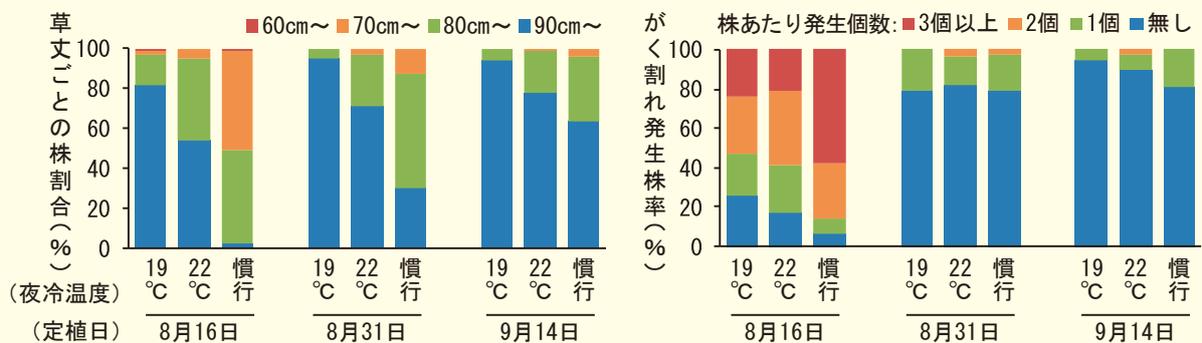


図 定植日と夜冷温度が‘ソルボンヌ’の切り花品質に及ぼす影響

表 夜冷栽培における‘ソルボンヌ’の収益性の試算（10aあたり）

定植日	夜冷 ^{z)} 条件 (設定温度)	想定 ^{y)} 平均単価 (円 / 本)	10aあたり ^{x)} 販売額 (千円)	販売 増加額 (A) (千円)	必要な ^{w)} 電気料金 (B) (千円)	差引額 (A-B) (千円)
8月16日	19°C	179	2,148	1,332	145	1,187
	22°C	171	2,052	1,236	88	1,148
	無処理	68	816	-	-	-
8月31日	19°C	261	3,132	324	81	243
	22°C	250	3,000	192	42	150
	無処理	234	2,808	-	-	-
9月14日	19°C	269	3,228	168	33	135
	22°C	264	3,168	108	12	96
	無処理	255	3,060	-	-	-

z:19°C区は定植後から10月12日まで、22°C区は10月1日までの期間、18:00~6:00を所定の温度で夜冷。
夜冷開始から設定温度に到達する時間は、時期によって異なる。
y:県内主要産地の販売実績をもとに採花時期、草丈、がく割れの有無等による等級別の単価を算出し、これらの加重平均により各区の平均単価を計算した。
x:県内主要産地での平均的な栽植密度12,000球/10aとして試算。
w:定植日から各区夜冷終了日までにかかる電気料金。
電力単価は四国電力低圧電力料金とし、基本料金は除外した。



写真 8月16日に定植した
‘ソルボンヌ’

オリエンタル系ユリを高温期に定植する作型では、草丈が短く、奇形花（がく割れ）が発生して切り花品質が低下します。これまでの研究で、18:00～6:00の22°C夜冷による品質向上が確認されています。そこで、数品種を供試して19°C、22°Cでの夜冷栽培の収益性を検討しました。

19°C区は定植直後から10月12日まで、22°C区では10月1日まで18:00～6:00をヒートポンプエアコンで夜冷しました。その後、10月15日には夜温が15°C以下となり加温を開始しました（データ略）。

‘ソルボンヌ’では、夜冷温度が低いほ

ど草丈が長い切り花の割合が多くなりました（図左）。また、がく割れの発生は8月16日に定植した場合に夜冷処理によって減少しました（図右）。夜冷栽培の収益を試算した結果、このような品質向上により増加した販売額は、いずれの定植日と夜冷温度でも必要な電気料金を上回り、特に8月16日定植で収益性が高まりました（表）。

‘カサブランカ’、‘シベリア’、‘セーラ’等の他の品種でも同様の効果が確認できました（データ略）。

（花き担当 松木尚志 088-863-4918）